

業種	自動車製造業
活用分野	テレマティクスサービス
テクノロジー	車載通信モジュール

通信費無料のカーナビ向けサービス 効率的なルート案内でエコ運転も可能に

本田技研工業は、カーナビとモバイル通信を使った情報サービスにおける差別化ポイントの1つとして、「通信費の無料化」に力を注いできた。

双方向のドライブ情報サービス「インターナビ・リンク プレミアムクラブ」は、入会金・年会費が不要。2010年2月からは、インターナビ会員向けに業界初となる通信費無料の「リンクアップフリー」を、ハイブリッド車「CR-Z」に適用。2011年3月にはリンクアップフリーの対応対象を全車種に広げていくことを発表した。

専用通信機器としてウィルコムとのPHS通信モジュールを利用している。

走行データ収集量の大幅増で 提供情報の精度も向上

通信費無料サービスへの取り組みについて本田技研工業 インターナビ事業室 事業推進ブロック ブロックリーダーの今村健氏は、「お客様にコスト負担をかけない仕組みを確立したことで、サービスの多様化を図ることができました。特に渋滞を加味したルート案内などでは、フローティングカーデータ(FCD)と呼ぶ走行データを5

分間隔で収集することにより、情報の精度向上も実現しています」と説明する。

リンクアップフリーの対応車種拡大で2011年末にはFCDの収集量が約10倍になると予測。走行現場からの情報が増えれば交通情報の精度が高まり、スムーズなルート案内や目的地までの所要時間短縮などをより的確に案内できるようになる。

「これが結果的に省エネ運転を実現し、CO₂削減に寄与することになります」と今村氏はいう。実際、同社が行った効果検証では、FCDとVICS情報を融合した最適ルート案内により、通常のカーナビ利用と比べて走行時間が約20%短縮され、CO₂削減効果に換算すると15.8%の削減率向上になるとの結果を得ている。

事故・渋滞への行政施策や 災害支援でも有効活用

FCDは、地方自治体などにおける事故・渋滞対策のための道路行政にも役立てられている。例えば埼玉県では、FCDから抽出した危険箇所での急ブレーキの発生が7割も減少する



本田技研工業
 インターナビ事業室
 事業推進ブロック
 ブロックリーダー
 今村健氏

という成果をあげた。

また、東日本大震災の発生直後、本田技研工業ではFCDを用いて被災地における通行可能道路情報を作成・提供。被災者や救援車両などのスムーズな移動に貢献した。

他方、リンクアップフリーでは5分間隔で行われる通信により、走行場所に応じた気象・警報・災害などの防災情報配信による安全サービス向上も実現している。また、ユーザーへのONE to ONEダイレクトメッセージ「Hondaからのお知らせ」でも、車両保有期間や走行距離、住んでいる地域、季節など複合的な条件によるユーザー毎のメッセージ配信機能が強化された。

「リンクアップフリーは非常に大きな反響があります。今後、全車種への展開を進めるとともに、どのように進化させるかも検討していきます」と、今村氏は意気込みを語っている。

図 FCDとVICS情報を融合した最適ルート案内

会員同士で収集した交通情報で、VICS情報を補完
 渋滞を加味し、目的地へより早いルート案内



Honda インターナビシステム

